

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代朝鮮語における接続語尾' -damyeon' について
Author(s)	深見, 兼孝
Citation	ニダバ , 13 : 40 - 48
Issue Date	1984-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047153
Right	
Relation	



現代朝鮮語における接続語尾 ‘-damyeon’¹ について

深 見 兼 孝

1 はじめに

語尾であるとの認定如何に拘らず ‘-damyeon’ に言及された僅かな例² から, ‘-damyeon’ は所謂条件法のような意味を持つ傾向があり, その仮定には話者及び聴者または第三者の判断が含まれ客観的色彩を帯びる, という仮説を立てておこう。しかし, そのどれも ‘-damyeon’ の構文上の性格には触れていない。本小稿は, ‘-damyeon’ が他の文構成部位に加える制約を明らかにし, それに基づいて上の仮定を再検討したものである。

2 ‘-damyeon’ の構文上の性格

2.1 主節述部の制約

主節の述部は話者の判断, 推量, 意図, 願望, 要求, 命令を表わさなければならない。次の各文を検討されたい。

- 1) amuri 主人 euisig i gangha da ha rjirado gugryeog i i reur
 “どんなに” “意識” 主 “強い” 叙 “言う” 放任 “国力” 主 “これ” 対

 dwisbadcimha ji mosha n DAMYEON jongi horangi e burgaha
 “支える” 副 不可能 現 “紙” “虎” 所 “過ぎない”

 ge doe go ma n da. (判断)
 副 “成る” “てしまう” 現 叙

- 2) irbon e ga n DAMYEON gimci ga geuriweoji r geo ye yo.
 “日本” 所 “行く” 現 “キムチ” 主 “懐しくなる” 推 量 コ 叙

 (推量)

- 3) nae ga nagjeha n DAMYEON eomeoni ggeseo seurpeoha si
 1代 主 “落第する” 現 “母” 主(尊) “悲しむ” 尊

 gess ji. (推量)
 未 叙

- 4) maeir sur eur meog neun DAMYEON arkoor jungdog i doe r
 “毎日” “酒” 対 “飲む” 現 “アルコール” “中毒” 補 “成る”
 ji do moreu gess ji. (推量)
 “かもしれない” 未 叙
- 5) bi ga o n DAMYEON taegsi ro ga neun ge (< geos i) joh
 “雨” 主 “降る” 現 “タクシー” 具 “行く” 冠 “こと” 主 “よい”
 eur geos gat da. (推量)
 推量 叙
- 6) hangug e ga n DAMYEON periho reur ta go ga r saenggag
 “韓国” 所 “行く” 現 “フェリー” 対 “乗る” 羅列 “行く” 冠 “考え”
 i bnida. (意図)
 コ 叙
- 7) moseukeuba e ga n DAMYEON bihaenggi boda siberia ceordo
 “モスクワ” 所 “行く” 現 “飛行機” 比較 “シベリア” “鉄道”
 reur iyongha go sip da. (願望)
 対 “利用する” 願望 叙
- 8) peurangseo e ga n DAMYEON epertab sajin eur bonae ju
 “フランス” 所 “行く” 現 “エフェル塔” “写真” 対 “送る” “与える”
 seyo. (要求)
 命(尊)
- 9) hangug e ga n DAMYEON gyeongju e ga ra. (命令)
 “韓国” 所 “行く” 現 “慶州” 所 “行く” 命

これに対し、時間と係わりなく常に真と見做される事柄³を表わした次の各文は非文である。これは、この種の事柄が話者の判断によって成立しているのではないが故に、それを表わす文には話者の判断が含まれないからである。

- 10) *gaeur i o n DAMYEON nagyeob i ji n da.
 “秋” 主 “来る” 現 “落葉” 主 “散る” 現 叙
- 11) *Odo iha ga doe n DAMYEON mur eun eo n da.
 “0度” “以下” 補 “成る” 現 “水” 主題 “凍る” 現 叙
- 12) *hae ga ji n DAMYEON eoduweoji n da.
 “日” 主 “没む” 現 “暗くなる” 現 叙
- 13) *2 eseo 2 reur bbae n DAMYEON O i doe n da.
 奪 対 “引く” 現 複 “成る” 現 叙

- 14) *4 e 5 reur deoha n DAMYEON 9 ga doe n da.
 所 対 “加える” 現 補 “成る” 現 叙

また、社会通念の成立も話者の判断とは無関係である。故に、次の15)が非文なのは10)~14)が非文なのと同じ理由によるものである。

- 15) *naw hante murgeon eur birri n DAMYEON bandeusi dorryeaju
 “他人” 与 “物” 対 “借りる” 現 “必ず” “返す”
 eoyaha n da.
 義務 現 叙

以上から、主節の述部は話者の判断、推量、意図、願望、要求、命令を表わさなければならないという制約があることは明らかである。

2. 2 条件節の制約

‘-damyeon’は条件節が言わば必ず起こることを表わす文には用いられない。例えば、日本や韓国のような所では毎年夏が来、冬が来るのは確実なことであるが、それを仮定した次の16)~17)はいずれも非文か座りの悪い文である。

- 16) *yeoreum i o n DAMYEON eunheui neun haeundae eseo
 “夏” 主 “来る” 現 (人名) 主題 (地名)

suyeong eur ha bnida.
 “水泳” 対 “する” 叙

- 16') ? yeoreum i o n DAMYEON eunheui neun haeundae eseo

suyeong eur ha r goes i bnida.
 推量 コ 叙

- 16'') ? yeoreum i o n DAMYEON haeundae eseo suyeong eur ha

bsida.
 勸(尊)

- 17) *gyeour i o n DAMYEON na neun seoragsan e seuki reur ta
 “冬” “来る” 1代 主題 (山名) 所 “スキー” 対 “(スキーを)する”

reo ga n da.
 目的 “行く” 現 叙

17') gyeour i o n DAMYEON na neun seoragsan e seuki reur ta

reo ga gess eubnida.

未 叙

17'') gyeour i o n DAMYEON seoragsan e seuki reur ta reo ga

ra.

命

また、韓国を含む地球上の大部分の所では毎日日が暮れて夜が来るのも確実である。それを仮定した次の18)~19')もやはり非文か座りの悪い文である。

18) *hae ga ji n DAMYEON na neun jib euro doraga n da.

“日”主“暮れる”現 1代 主題 “家”所 “帰る”現 叙

18') hae ga ji n DAMYEON na neun jib euro doraga r geos i

推量 コ

da.

叙

18'') hae ga ji n DAMYEON jib euro doraga ra.

命

19) bam i o n DAMYEON surraejabgi reur ha bsida.

“夜”主“来る”現 “隠れんぼ” 勸(尊)

19') bam i o n DAMYEON bbarrae reur geod eo ju seyo.

洗濯物” 对“取り込む”副“与える”命(尊)

16)~19')は‘jigeumirado’ (“今すぐにでも”)を先行させるとすべて適格文となる。これは、そうすることによってこれらが確実な事柄を仮定した文でなくなるためである。故に、条件節はその実現が確実視される事柄を表わしてはいけないという制約があると言えよう。

なお、16)~19')がその主節の述部の表わす意味によって文法度に差を示しているのは興味ある現象である。が、その解釈は後日に回して、今はその事実を指摘するに止めておこう。

さて次の2文を比較されたい。

20) nae ga irbon e ga go sip DAMYEON geunyeo neun surpeoha

1代 主 “日本”所“行く”願望 3代(女) 主 “悲しむ”

ji anh eurgga?

副 否定 疑

- 21) nae ga cub DAMYEON os eur deo ib neun da.
 1代 主 “寒い” “服” 対 “もっと” “着る” 現 叙

20)は話者の願望, 21)は話者の感覚が仮定の内容であるが, 前者が適格文であるのに対し, 後者は座りの悪い文である。この事実は1で立てた仮説の有効性に疑問を投げかけるものである。この問題は3.2で取り上げることにしよう。

2.1, 2.2で挙げたすべての適格文において, ‘-damyeon’を‘-myeon’と置換してもその文法性は保障される。一方, 非文または座りの悪い文はそうすることで適格文となる。即ち, ‘-myeon’には2.1と2.2で明らかにしたような制約がないのである⁴。この点‘-damyeon’との差は明瞭である。

2.3 条件節の表わす事柄と主節の表わす事柄の時間関係

これまで検討して来た文は, 条件節の時制が現在, 主節の時制が現在または未来であった。この場合, ネイティブスピーカーの直観では条件節の表わす事柄の実現は将来においてである。このことと条件節の表わす事柄の非現実性とが密接な関係にあることは言うまでもないだろう。ここで, 条件節の表わす事柄と主節の表わす事柄の時間的前後関係を, 2.1の1)~9)について検討してみると, 6)と7)を除いて, 主節の表わす事柄は条件節の表わす事柄が実現しなければ実現し得ないものである。一方, 6)と7)についてはそうは考えられない。どうやら, 条件節の表わす事柄と主節が表わす事柄の間には時間的前後関係について特定の制約がないらしい。

条件節は過去時制において過去の事柄を表わす。これも‘-myeon’との差異点の一つである⁵。さてこの時, 主節が現在または未来時制ならば, その表わす事柄は条件節の表わす事柄の現在または将来の結果でなければならない。次の文を見られたい。

- 22) nun i wass (< O ass) DAMYEON gir i miggeureou r geos
 “雪” 主 “降る” 過 “道” 主 “滑べる” 推量
 i da.
 コ 叙

(発話時において雪が降っていようと降ってまいと)過去に雪が降ったのであれば道は滑りうる。同様に,

- 23) bi ga wass (< O ass) DAMYEON gamum i purri r geos i
 “雨” 主 “降る” 過 “日照り” 主 “解ける” 推量 コ
 da.
 叙

においても、(発話時に雨は止んでいたとしても)雨が降ったのであれば日照りが解消することもある。なお、22), 23)の場合、仮定された事柄が実際に起こったかどうか話者は未知の状態であると解釈される。これに対し、次の3')では話者は実際には起こらなかったことを仮定していると解釈される。何故なら、話者の経験について話者が未知の状態にあるとは考えられないからである。

3') nae ga nagjehaess (< ~ -ha yeoss)DAMYEON eomeoni ggeso seur-
過
peoha si gess ji.

勿論3')においても、話者が落第したことを将来母親が知れば悲しむだろうということを設定するのに困難はない。しかるに次の各文は非文である。

2') *irbon e gass (< ga ass) DAMYEON gimci ga geuriweoji r geo ye yo.
過

9') *hangug e gass (< ga ass) DAMYEON gyeongju e ga ra.
過

4') *maeir sur eur meog eoss DAMYEON arkoor jungdog i doe r ji do moreu
過
gess ji.

2')において、キムチが懐しくなるには聴者(または第三者)が発話時において日本にいない必要はない。しかし、条件節の表わす事柄は、日本に行ったという聴者(または第三者)の過去の行為であって、そこでは彼の発話時における日本滞在は保障されていない。このために2')は非文なのであろう。9')についても同様のことが言える。また4')が非文なのは、将来アルコール中毒になることが、現在も毎日酒を飲んでいるのでなければ、単に過去にそうであった結果だとは言えないからであろう。条件節の表わす事柄の発話時における継続が保障されなくても成立する22), 23)と対照的である。

条件節が未来時制である場合は稀のようである⁶が、その典型と思われる例を次に挙げておこう。次の2文を比較されたい。

24) ne ga ha gess DAMYEON ha ra.
2代 主“する” 未 “する”命

25) ne ga ha gess EUMYEON ha ra.
未

24)においては聴者の意志が仮定されている。つまり‘-gess-’は「意志」の用法なのである。この事実は‘-damyeon’に間接話法的意味がないとしたのでは説明がつかない。一方、25)においては聴者の行為の可能性または希望が仮定されている。ここの‘-gess-’は「推量」の用法である。

条件節、主節共に過去の事柄を表わす時、一般にどちらも非現実の事柄である。この場合主節の述部は(‘-r tende’を含む)推量形に限られ、‘-damyeon’は‘-deoramyeon’と置換可能である。次の2文⁷を参照されたい。

26) *goguryeo ga samgug eur tongirhaess* (< ~ -ha yeoss) DAMYEON /
 “高句麗” 主 “三国” 对 “統一” 過

DEORAMYEON *hangug do sanyugug i doe eoss eur geos i*
 “韓国” 添加 “産油国” 補 “成る” 過 推量 コ

da.
 叙

27) *ceorsu ga seourdaehaggyo e ibhaghaess* (< ~ -ha yeoss)
 (人名) 主 “ソウル大学” 所 “入学する” 過

DAMYEON / DEORAMYEON *joh ass eur tende.*
 “よい” 過 後悔

3 ‘-damyeon’の意味

3.1 条件節の表わす事柄の現実性

2.3では条件節の時制が過去の時、その表わす事柄が実現したかどうかについて話者が未知の状態にあるか、実現しなかったと考えていることに言及した。これと2.2で明らかにした制約を合わせれば、条件節は、少なくとも現在時制と過去時制において、その実現が確實視される事柄を表わしてはならない、ということになる。故に、筆者は、‘-damyeon’の意味を最終的に規定するにはそれが導く条件節の論理構造の解明が必要だと思うけれども、敢えて‘-damyeon’についてその仮定内容の現実性は如何にと問われれば、現実性は低い、あるいは少なくとも高くないと答えるを得ない。

3.2 他人の判断

この節では問題を提起するに止めておこう。先に1で立てた仮説の有効性に対し疑問を提示したが、その理由はこうである。すなわち、もし、仮定に聴者もしくは第三者の判断が含まれるという仮説が正しいとすれば、話者の願望や感覚に対し話者以外の人物が判断を下すのはそもそもおか

しいのであるから、20)や21)は非文になるはずだからである。同様の疑問が話者の意図を仮定した次の28)についても言える。

28) nae ga hangug e ga ryeo n DAMYEON bbarri junbiha r
 1代 主 “韓国” 所 “行く” 意図 現 “急いで” “準備する”

tende.

推量

ところが一方で、この仮説は、条件節が過去時制において過去の事柄を表わすという事実や、24) (2.3)において聴者の意志が仮定されるという事実によって支持されるように思える。さらに、条件節がその実現が確実視される事柄を表わし得ないという事実はその傍証となろう。何故なら、そのような事柄を仮定するのに他人の判断は必要でないからである。

要するに今はジレンマの状態なのである。このジレンマを解消するには、もっと精密化された仮定が必要であろう。

4. おわりに

‘-damyeon’の意味機能の究明には、‘-myeon’との全面的かつ詳細な比較が必要である。今回はその極一部しか試みることができなかったことを遺憾に思う。また日本語のナラとの対照研究もこれに利する所が大きいと思われる。これらの点も合わせてさらなる研究は後日に期したい。論を終えるに当たり、本小稿の作成にインフォーマントとして協力してくれた方福姫嬢(1957年京畿道生)に感謝の意を表するものである。

◎ 本小稿では例文はすべてローマ字化し、必要と思われる程度の構成要素分解の上、次のような符号、略号を使って示した。

“ ” 意味

○ 固有名詞(日本での慣用が定まっていると思われるものは“ ”で表示)

主	主格助詞	コ	コピュラ
対	対格助詞	叙	叙述法終結語尾
与	与格助詞	疑	疑問法終結語尾
奪	奪格助詞	勸	勧誘法終結語尾
具	具格助詞	命	命令法終結語尾
所	所格助詞	冠	冠形語尾

補	補格助詞	副	副詞形語尾
現	現在時制表示要素	尊	尊敬補助語幹
過	過去時制表示要素	1代	1人称代名詞(単数)
未	未来時制表示要素	3代	3人称代名詞(ク)

上以外のものの説明は必要ないだろう。なお、(女)は女性(SEX)を、(尊)は尊敬の意を含むことを示す。

注

- 1 「連結語尾」とも言うが、以下では接続法の語尾ということで「接続語尾」と言うことにする。
- 2 I Gwang-Ho (1980) pp. 49-52, I sang-Tae (1977) pp. 3-8, Lewin (1970) pp. 222-223, Roth (1936) pp. 478-484 参照。
- 3 「事柄」には主節述部の表わす話者の判断、推量、意図、命令等は含まれないものとする。ただし、条件節についてはこの限りではない。また、条件節の表わす事柄を仮定の内容とも呼ぶことにする。
- 4 I Sang-Tae (1977)によれば、'-myeon'には一切の制約がない。しかし注6参照。
- 5 '-myeon'が導く条件節は過去時制においても将来の事柄を表わしうる。Nam Gi-Sim (1981) p. 72参照。
- 6 I Gwang-Ho (1980)は、'-damyeon'と'-myeon', I Sang-Tae (1977)は'-myeon'について、過去及び未来時制表示要素との共起が可能であると述べているが、'-damyeon'と'-myeon'の未来時制表示要素との共起如何について、インフォーマントは一時否定的態度を取った。これは'-damyeon'や'-myeon'が未来時制表示要素と共起することがあっても、それは限られた場合であることを示唆する。それがどのような場合であるかは未だ不詳である。また、'-myeon'については過去時制表示要素と共起しうる条件も不詳である。注2参照。
- 7 I Gwang-Ho (1980) p. 51の例文35), 36)を基に作ったものである。

参 考 文 献

- I Gwang-Ho (1980)。「接続語尾'-myeon'の意味機能とその相関性」(朝鮮語)言語第5巻第2号。
- I Sang-Tae (1977)。「{-myeon}類接続文について」(朝鮮語) Baedarmar 2。
- Lewin, B (1970)。「Morphologie des Koreanischen Verbs.」 Harrassowitz.
- Nam Gi-Sim (1981)。「国語文法の時制問題に関する研究」国語学研究選書6。塔出版社。
- Roth, P.L (1936)。「Grammatik der Koreanischen Sprache.」聖芬道修道院。(金敏洙他編(1979)。「歴代韓国文法大系」第2部第9冊。塔出版社。)